

一般社団法人日本小児血液・がん学会
令和4年度(2022年度) 定時社員総会議事録

1. 日 時:2022年7月1日(金) 15時00分から17時00分まで

2. 場 所:ZOOMウェビナー

3. 出 席 者:社員(評議員)総数 276名 この議決権数 276個
出席社員(評議員) 213名(委任状を含む) この議決権数 196個

4. 出席理事:大賀 正一、米田 光宏、滝田 順子、小川 千登世、高橋 義行、多賀 崇、奥山 宏臣
洲本 康史、菱木 知郎、藤 浩、滝 智彦、盛武 浩、松本 公一、井上 健、康 勝好
塩飽 仁、天野 功二

5. 出席監事:檜山 英三

6. 議 長:大賀 正一

以上のとおり定足数に達したので、定款の規定により理事長 大賀正一は開会を宣した。まず逝去された会員へ黙祷をささげた後、議事に入った。

第1号議案 議事録署名人の選任の件

議長は、議事録署名人について、本日出席の 石田也寸志 評議員と 脇坂宗親 評議員の2名を指名し、その承認を諮ったところ、全員異議なく承認された。

第2号議案 役員改選の件

議長は、理事及び監事改選について、選挙によって新たに11名が選定されたことを議場に報告の上、再任及び新任として下記の者を指名し、その承認を諮ったところ、全員異議なく承認された。

理事	大賀 正一	菱木 知郎	真部 淳	小川 千登世	高橋 義行	多賀 崇
	奥山 宏臣	藤 浩	滝 智彦	塩飽 仁	加藤 元博	富澤 大輔
	家原 知子	木下 義晶	大植 孝治	余谷 暢之	山崎 文之	義岡 孝子
監事	堀 浩樹	洲本 康史				

なお、被選任者はいずれも就任を承諾した。

また、議長は理事長改選について、選挙によって理事大賀正一が選定されたことを報告した。

第3号議案 名誉会員推戴の件

議長より、名誉会員について、理事会より4名の推戴案が示され、その承認を諮ったところ、全員異議なく承認された。

第4号議案 評議員選出の件

議長は、評議員等資格審査委員会 井上健担当理事に報告を依頼し、井上理事より、13名より申請があり、委員会にて審査した結果、13名全員が申請資格を充足している旨の報告があり、その承認を諮ったところ、全員異議なく承認された。

第5号議案 令和3年度事業報告

議長は、令和3年度事業報告について詳細に説明し、その承認を全員に諮ったところ、異議なく承認さ

れた。

第 6 号議案 令和 3 年度収支決算報告

議長は、庶務・財務委員会松本公一担当理事に報告を依頼し、松本理事より令和 3 年度収支決算が示され、続いて檜山英三監事から監査報告がなされた。議長が承認を全員に諮ったところ、異議なく承認された。

第 7 号議案 専門医制度規則改正について

(報告事項)

1. 令和 4 年度事業計画について

議長より、令和 4 年度事業計画について報告がなされた。

2. 令和 4 年度収支予算について

議長は、庶務・財務委員会松本公一担当理事に報告を依頼し、松本理事より令和 4 年度収支予算について報告がなされた。

3. 庶務報告

議長は、庶務・財務委員会松本公一担当理事に報告を依頼し、松本理事より令和 3 年度庶務報告がなされた。

4. 委員会報告

議長より、委員会活動状況について概説がなされ、一部担当理事から補足説明する形で、資料をもとに、以下の報告がなされた。

<評議員等資格審査委員会>

新規評議員申請者の適格審査、評議員資格更新に関する審査を実施したことが報告された。

<倫理委員会>

未承認薬の臨床応用と、学術集会で発表する症例報告について、学会としての指針の作成を検討することを協議した、今後の理事会へ提言予定であることが報告された。

<学術集会プログラム委員会>

学術集会の開催に向けて、プログラム作成、演題採否や学術集会開催に関する課題の検討、優秀演題の選定、Pediatric Blood & Cancer 誌抄録掲載などを行ったことが報告された。

<学会誌編集委員会>

2020 年度下期の活動について下記が報告された。

・令和 3 年度下期は 4 号の学会誌を発行したことが報告された。

・編集委員会内規に、新たに「転載許諾」に関して、「筆頭著者または責任著者自身の使用においては営利目的でなければ無料とする」ことが委員会審議の後、理事会にて承認された。

・「委員会報告」に投稿された場合の編集協力金(3000 円)については、徴収しないことが委員会審議の後、理事会にて承認された。

2022 年度上期の活動として下記が報告された。

・一般投稿論文の審査ならびに講演記録論文の閲読

・59 巻 2 号、3 号を発行予定

・次回 2022 年 11 月の学術集会の会期中に委員会開催予定

<診療ガイドライン委員会>

- ・小児白血病・リンパ腫診療ガイドライン、小児がん診療ガイドライン 2016 の改訂
- ・2021 年 11 月 3 件の転載許諾について対応した。
- ・「健常小児ドナーからの骨髄・末梢血幹細胞採取ガイドライン」について、委員会で共有し、委員会としての意見をお伝えした。
- ・日本緩和医療学会から、小児がん疼痛に関する WPG に参画の要請があったため、長谷川大輔委員と宮地 充委員を推薦し参加いただいている。

<利益相反委員会>

2021年9月に委員会を実施し、会員の利益相反申告書の確認を行った。またそれに伴い、申告書様式の改定を行った。

<学術・調査委員会>

- 1)「20 歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究」による学会疾患登録
 - ・2020 年症例：第 63 回学術集会でポスター報告、並びに、学会 HP にて公開
 - ・2021 年症例：2022 年 5 月 31 日登録締め切りとし現在集計中
 - 2)「20 歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究」改訂第 4 版の倫理審査
 - ・アセント(低学年用・高学年用)の作成
 - ・学会研究審査委員会および理事長施設に提出し、承認後に HP 公開
 - ・2021 年 6 月 30 日の人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(新指針)に従い、中央一括倫理審査を可能としている。希望施設において、理事長施設における中央倫理審査申請を受付け、対応中である。
 - ・各施設倫理審査状況の把握のため、学会事務局への施設倫理審査承認書の提出と、文書による同意取得の徹底をお願いする周知を登録施設に実施
 - 3)COVID-19 に関するガイダンス、関連論文の調査、HP での情報提供
 - 4)関連研究班との事業
 - 厚生労働科学研究班「全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究班(平田班)へ小児がんに関連する学会として出席し、情報交換を実施
- なお、上記の活動については 22 年度も引き続き行うことが報告された。

<疾患委員会>

疾患委員会は、7つの小委員会で活動しており、各小委員会(血小板委員会、造血細胞移植委員会、再生不慮性貧血・MDS 委員会、止血血栓委員会、白血病・リンパ腫委員会、組織球症委員会、固形腫瘍検討委員会)の活動内容が報告された。

<看護委員会>

- 1)「地域における小児がんの子どもへの緩和ケアの充実」に向けて、小児がんの子どもと家族への関わりが少ない訪問看護師向けに「治療が望めない小児がんの子ども・家族と在宅で関わるためのハンドブック」を作成中である。
- 2)第 63 回日本小児血液・がん学会学術集会および第 19 回日本小児がん看護学会学術集会の 2 学会合同シンポジウム[生きることを支えていくためのエンド・オブ・ライフケア]にて、天野委員が JSPHO 側の座長を務めた。
- 3)JSPON の「小児がん看護師」に関して、本会の先生方にも多大なご協力をいただき、テキストの出版準備中である。2022年3月31日には2期目となる「小児がん看護師」12名が誕生した。

4)前委員会で企画・実施した医師・看護師・家族対象の全国調査について、第63回日本小児血液・がん学会学術集会および第19回日本小児がん看護学会学術集会にて、4つの演題を発表した。

なお、今後の活動として、「治癒が望めない小児がんのこども・家族と在宅で関わるためのハンドブック」を11月の学術集会にて配布予定であること、「地域における小児がんの子どもの緩和ケアの充実」に向け、地域の訪問診療や訪問看護向けの研修会や、成人領域との協働などを検討していくこと、前委員会で企画し実施した医師・看護師・家族対象の全国調査は、3つのテーマ（「食事制限・保清・隔離/逆隔離の制限の実態と基準/根拠」「医師と看護師の認識の差異」「ケアに対する家族の満足度」）で論文発表を予定していることが報告された。

<教育・研修委員会>

- ・教育セミナーを2022年7月3日に実施予定である
- ・第64回日本小児血液・がん学会学術集会・教育セッションを実施予定である
- ・2021年度は全国各地7会場での地区セミナーの開催と、3回の小児医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会(CLIC)の開催が報告された。

なお、2022年度も、地区セミナーとCLICの開催を予定していることが報告された。

<専門医制度委員会>

1)COVID-19感染防止への特別対応として下記を実施したことが報告された。

- ①専門医研修施設の暫定認定要件の暫定措置を2022年まで1年延長した。
- ②COVID-19感染対策により中止になった学会等を考慮して、暫定的に2021年2月に更新予定者のうち、基準に達しなかった該当者は、1年間の更新猶予を認めた。
- ③2021年3月31日で認定期間が終了する暫定指導医の認定期間を2022年3月31日まで延長した。
- ④COVID-19感染の影響と緩和ケア研修会(CLIC)の受け入れ可能人数を鑑みて、規則の付則21「2022年度より緩和ケア研修会(CLIC)受講歴を小児血液・がん専門医認定申請および資格更新のための必須条件とする」の施行を2年延期し、2024年度からの施行に変更した。
- ⑤第7回日本小児血液・がん専門医試験は嚴重な感染対策の元に2021年9月11日、12日に開催した。2020年に申請したが受験できなかった専攻医も対象に含み、これら専攻医の合格者は遡って2020年度の認定とした。

2)2022年4月1日より、新たに導入された「研修施設群」制度による専門医研修が開始された。研修施設は、従来の基準をすべて満たす「認定研修施設」か、認定研修施設を中心とした施設群に所属することにより必要な基準を満たすことができる「関連研修施設」のいずれかに認定された。本制度により、従来は研修施設のなかった都道府県に新たに研修施設が設置された。

【認定状況】

専門医 322名/指導医 162名/暫定指導医 26名(専門医 15名、指導医 15名)

専門医研修施設 105施設

認定研修施設 44施設(単独施設 22施設/施設群 22施設)

関連研修施設 61施設

小児がん認定外科医 92名

みなし指導医 4名

研修集会 16 研修集会

【資格更新状況】

小児血液・がん専門医第3回資格更新:対象者 29名/資格更新者 27名(猶予0名)

小児血液・がん指導医第3回資格更新:対象者 8名/資格更新者 6名(猶予0名)
小児がん認定外科医第7回資格更新:対象者 18名/資格更新者 13名(猶予0名)
研修集会第6回資格更新:対象施集会 20/認定更新集会:11

なお、2022年度の専門医試験は、2022年9月10日・11日に実施予定であることが報告された。

<社会・広報委員会>

2021年度の活動として下記について報告され、2022年度も引き続き継続することが報告された。

- ・ホームページ上での本学会活動の広報
- ・各委員会活動の報告書の更新(毎年総会後の更新を予定)
- ・国、厚労省や他学会などからのお知らせ
- ・各種団体から学会ホームページのリンク
- ・ホームページのリニューアル
- ・JSPHO 会員用ニュース(JSPHO ニュース)

<保険診療委員会>

1)厚生労働省医療技術評価(令和4年度診療報酬改定)について

- ・当学会からは以下のものを申請したが「別途評価を行うべき根拠が十分に示されていない。」との理由で認められなかった。

(ブリナツモマブ)携帯型精密輸液ポンプ加算/(ブリナツモマブ)在宅悪性腫瘍等患者指導管理料
/がんゲノムプロファイリング検査

- ・日本小児科学会社会保険委員会から別途提出した「造血幹細胞移植を実施する小児患者に対する無菌治療管理の評価の新設」の診療報酬要望について

現在の「小児入院医療管理料」に追加して2000点(または1500点)×90日の「無菌室治療管理加算」が算定できるよう診療報酬が改訂された。

2)厚生労働省より安定確保医薬品供給不足が生じた場合の診療の選択肢の提示の検討についての指示があり、委員会で39品目について代替案作成し厚労省へ提出した。(令和3年12月)

3)開発候補医薬品の推薦依頼について(別紙資料)

「治験・臨床試験を機動的かつ円滑に実施するためのサポート機能に関する研究」(令和3年度AMED 臨床研究・治験推進研究事業)より企業治験、医師主導治験等による医薬品開発を推進するため医薬品開発の候補医薬品の推薦依頼があった。会員より候補薬を募集し申請書、患者数を裏付ける資料、添付文書、関連文献、患者団体の要望書を整理の上、優先するもの23品目、優先しないもの14品目を公益社団法人日本医師会治験促進センターへ提出した。(令和年1月27日)

4)「骨髓微小残存病変量測定」検査施設更新認定について

現在当学会が認定している「骨髓微小残存病変量測定」検査施設から認定更新の申請があり現在認定の4施設について、令和4年4月1日から令和4年3月31日までの認定更新に問題ないものと判断した。

5)医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議関連

- ・「フィルグラスチム(遺伝子組換え)及びレノグラスチム(遺伝子組換え)再発又は難治性の急性骨髄性白血病に対する抗悪性腫瘍剤との併用療法」に関して会員へ周知
- ・網膜芽細胞腫に対してメルファランの申請を行った。(令和3年11月)
- ・小児急性前骨髄球性白血病に対して三酸化二ヒ素(トリセノックス注)の申請(令和4年4月)
- ・日本腫瘍循環器学会からの「アントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤の心毒性の発症抑制におけるデクスラゾキサンの適応外使用要望書」の提出に関する協力依頼があり、態度保留とした(令和

4年3月)

- ・2022年1月にフジフィルムより褐色細胞腫治療の適応で「ライアット MIBG-I131 静注」が本邦新発売された。学会として甲状腺髄様がんに適応を広げていくことの適否を知りたいとの依頼を受け、「国内開発を行う意義は乏しい」と回答(令和4年3月)
- ・イソトレチノインの高リスク神経芽腫の維持療法に関してサンファーマに対して開発要請が行われた。(令和4年6月)

6)薬剤供給停止関連

- ・オルガランの供給停止に付き協和クリティケアと面談(webにて)(令和4年1月)
- ・献血ヴェノグロブリン IH5%静注(一部規格)および献血ポリグロブリンN5%静注並びに10%静注(全規格)の製造販売中止について日本血液製剤機構より(令和3年9月)
- ・クリスマシン M 静注用の製造販売中止について 日本血液製剤機構より(令和4年1月)
- ・「コンファクト®F 静注用 250 単位/500 単位/1000 単位」の発売に伴う「コンファクト F 注射用 250/500/1000」の供給停止 KMバイオロジクス株式会社(令和4年5月)

<国際委員会>

1)学術集会日韓ジョイントセッション

- ・第63回学術集会における日韓ジョイントセッションのテーマは「乳児白血病」であり、日本側の演者として、宮村能子先生(大阪大学)、青木由貴先生(国立がん研究センター中央病院)、韓国からは Dr. Seung Min Han (Yonsei University)、Dr. Jung Yoon Choi (Seoul National University)がそれぞれ選出され、学会3日目の2021年11月27日に開催された。
- ・2022年度の第64回学術集会日韓ジョイントセッションのテーマは、血友病である。日本からは、野上恵嗣先生(奈良県立医科大学小児科)、矢田弘史先生(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター血友病科)が演者として選ばれた。韓国側からは演者の推薦待ちである。

2)韓国小児血液がん学会(KSPHO)からの演者推薦依頼

- ・KSPHOから本学会あてに、2021年10月22日にソウルで開催されるKSPHO学術集会のJSPHO/KSPHO joint symposiumの演者推薦の依頼があった。テーマはBone Marrow Failure Syndromesで、下記2名を本学会として推薦し、講演が行われた。
遺伝性骨髄不全:村松秀城先生(名古屋大学小児科)
後天性骨髄不全:エルトロンボパグ全国調査結果を中心に:江口克秀先生(九州大学小児科)
- ・2021年のKSPHO学術集会のJSPHO/KSPHO joint symposiumのテーマはGerm Cell Tumorである。演者を推薦する予定である。

3)WHO小児がんProject

- ・WHOが2018年からの取り組みとしてWHO Global Initiative for Childhood Cancerのproject を立ち上げた。日本小児血液・がん学会(JSPHO)、日本小児がん研究グループ(JCCG)、および国立国際医療センター(NCGM)との連携のもと、2021年1月27日からカンボジアで小児がん診療に従事している嘉数真理子医師とwebを通じて症例検討を継続中。2021年度は、症例検討を20回実施し、合計70例について検討した。

<長期フォローアップ・移行期医療委員会>

計7回の長期フォローアップ・移行期療検討委員会と5回の研修会を全国で実施したこと、移行期医療の取り組みについて、E-learning システムの作成中であることが報告された。

<遺伝性腫瘍委員会>

委員会名を、「腫瘍ゲノム診療・細胞療法委員会」と改訂することが報告された。また、日本癌治療

学会と日本臨床腫瘍学会と政策を進めていた「臓器横断的ゲノム診療のガイドライン」の第3版が
発刊されたことが報告された。

<女性医師活躍支援委員会>

- ・女性医師支援の就職情報ネットワーク整備のためのアンケートを実施した。
- ・第64回学術集会で女性医師活躍支援委員会による特別企画「女性医師キャリア支援セッション」の企画中であることが報告された。

5. 第64回小児血液がん学会学術集会準備状況報告の件

第64回学術集会越永会長より準備状況について以下の通り報告された。

- ・会期:2022年11月25日(金)~27日(日)
 ※25日、26日は集合型、27日は完全WEBでの開催予定
- ・会場:虎ノ門ヒルズフォーラム(東京都)
- ・テーマ「小児がんの子供と家族を支える」

6. 第65回日本小児血液・がん学会学術集会準備状況報告の件

第65回学術集会真部会長より準備状況について以下の通り報告された。

- ・会期:2023年9月29日(金)~10月1日(日)
- ・会場:ロイトン札幌(北海道)
- ・テーマ「心と体に優しい治療を目指して(仮)」
 ※現在の所、現地対面(または、ハイブリット=ライブ配信のみ)で検討中である。

7. 第66回日本小児血液・がん学会学術集会準備状況報告の件

第66回学術集会足立会長より、現在日程調整中であることが報告された。

議長は、以上をもって一般社団法人 日本小児血液・がん学会の定時社員総会に関するすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、議長ならびに議事録署名人がこれに記名押印する。

令和4年7月1日 一般社団法人日本小児血液・がん学会 定時社員総会

議 長 大賀 正一 ⑩

議事録署名人 石田 也寸志 ⑩

議事録署名人 脇坂 宗親 ⑩